

ユニセフ審査委員長が表敬訪問 加・カルガリー大からも

この夏、人学部生がグランプリを受賞した第4回ユニセフ・ワンミニッツ・ビデオコンテストの審査委員長で東海大学文学部広報メディア学科の五嶋正治教授が佐川泰弘人文学部長を17日午前、表明訪問した。



前日の三村信男学長に続く訪問で、委員長は、学部生の受賞作品が入っているDVDなどの一式を佐川学部長に手渡し、グランプリをあらためて祝った。



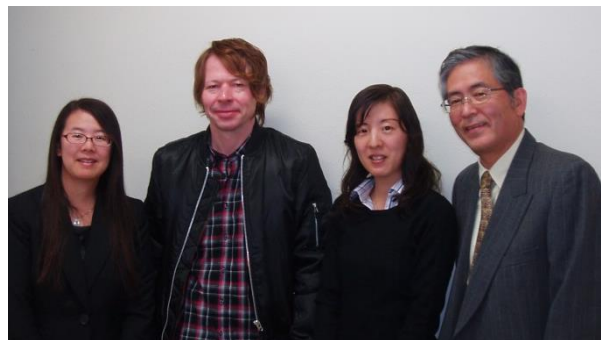
五嶋委員長は、応募作品が530にも上り、学生による審査で入賞する30作品に絞り込まれ、それをベースに審査委員長を含めた文部科学省やユニセフなどの委員により選定された選考の段取りを説明した。

そのうえで、最終的には、2作品に絞られ、児童虐待という今日的なテーマを扱った茨大生の作品が多くの支持を集め、グランプリに選ばれた裏話を披露した。

委員長は、応募した作品が3年連続で入賞している茨大生の村上信夫教授による映像制作の指導法を高く評価するとともに、コンテストのレベル引き上げのために今後も応募を続けてほしいと要望した。



19日にはカナダ・カルガリー大学の生涯学習部から高田・ベネット・涼子さんが人文学部を訪問、同行の英語学習プログラムについて説明、両校の提携の可能性について茨大側と意見交換した。



カルガリー大学は、中部のアルバータ州



のカルガリーを本拠とするカナダ有数の大学。英語プログラムについては、日本の青山学院大、関西大学、近畿大学などが利用しているとの説明があった。提携関係については、今後情報交換していくことにな

った。

(終)